

発行所 日本余暇学会 発行人 蘭田碩哉 発行日 平成二十年七月十五日

日本余暇学会ニュース

第12回学会大会

10月4日(土)～5日(日)

みちのく仙台初開催！

本年度の第12回学会大会は、仙台市および名取市で開催する運びとなりました。東北地区の学会活動は全国に比べて、回数・内容ともに貧弱のそしりを免れませんでした。そこで今年大会は、北海道・東北ブロックと全国との距離を縮める契機とすることを目標の一つにかかげております。

テーマ
「カルチュラル・スタディーズとしての余暇論」

記念講演に
本橋哲也教授
(東京経済大学)

この5月には大会会場地の尚絅学院大学で研究会を開き(内容は3頁参照)、合わせて大会シンポジストの人選をしました。初めての試みは、いつのときも難航するもので、全体の準備にも手間取り、連絡が遅れ、皆様には

ご迷惑をおかけいたしました。

さて大会のプログラムではカルチュラル・スタディーズの最前線で活躍してられる本橋哲也氏をお招きして講演をいただくとともに、若いシンポジストたちには余暇学の現在を報告していただきます。これを機会に若い世代の余暇学研究者たちが学会を活性化する力になってくれることを願っています。

第12回学会大会日程

日時 平成20年10月4日(土)～5日(日)
会場 第一日目 尚絅学院大学(名取市ゆりが丘4-10-1)
第二日目 仙台市戦災復興記念館(仙台市青葉区大町2-12-1 TEL:02-263-6932)
○プログラム
*第一日目 10月4日(土)

第63号

日本余暇学会事務局
〒911-0016
日野市神明1-13-1
実践女子短期大学
生活福祉学科蘭田研究室内
Tel/FAX 042-584-5428
e-mail
info@yokagakkai.jp
Home Page
http://www.yokagakkai.jp/

尚絅学院大学 5A講義室
10時 受付開始
11時 開会、年次総会、会長挨拶
12時 昼食
13時 シンポジウム
「若者文化と余暇—メディアはどのように『若者』をつくるのか」
シンポジスト：
姜 永培・宮入恭平・山本 存(アイウエオ順)
コーディネーター 杉座秀親
14時25分 研究発表(発表者数により、二会場予定)
16時 第一日目終了 仙
台市内で交流会を開催
*第二日目 10月5日(日)
仙台市戦災復興記念館 4階第二会議室
9時30分 受付開始
10時 記念講演 本橋哲也氏(東京経済大学教授)
「カルチュラル・スタディーズの視点」(仮題)
11時 立体討論 カルチュ

ラル・スタディーズとしての余暇研究
12時30分 散会
*エクスカーションは予定しておりません。なお、第二日目の会場の戦災復興記念館で仙台大空襲時の資料展示を見学できます(見学料100円)。また、会場から青葉通りに出ると土井晩翠庵があります(見学は無料)。
【研究大会参加申込】
参加費：会員 二千元 非会員 三千元
同封の大会申込書を、ファックスまたは郵便で事務局までお送りください。
参加申し込み締め切り及び参加費振込み9月10日
申込・お問い合わせは、日本余暇学会事務局
実践女子短期大学 蘭田研究室内
*所在地は「新聞タイトル下方」
【研究発表申込】
大会での研究発表を募集しております。
発表は1人15分、質疑応答5分とします。同封しました大会申込書にてエントリーした方には、別途抄録の書き方をお送りします。

○研究発表エントリー締切 8月10日
○レジュメ(発表者は全員提出してください) 9月10日
○運営
実行委員長 杉座秀親(尚絅学院大学)
事務局：申込受付 学入事務局
大会運営 日本余暇学会支部北海道・東北ブロック
○尚絅学院大学への交通
仙台駅9時07分発(JR)↓南仙台駅西口9時12分着
南仙台駅西口(バス)9時25分発↓尚絅学院大前9時40分着

日本余暇学会ホームページ
大幅リニューアル

日本余暇学会のホームページアドレス、メールアドレスが以下に変更されました。
ホームページ <http://www.yokagakkai.jp/>
メールアドレス info@yokagakkai.jp

日本余暇学会&ライフビジョン学会 合同シンポジウム

先の6月21日(土)、新宿NSビルにて日本余暇学会とライフビジョン学会の合同シンポジウム「ワーク・ライフ・バランスを検証する」が開催され、参加者約50名が集まる盛況となりました。まず日本余暇学会の

ワーク・ライフ・バランスを検証する

蘭田碩哉会長は、過労死など働きすぎの問題が未だに根強い日本社会で近年ワーク・ライフ・バランス政策が浮上してきた経緯を踏まえ、07年12月内閣府公表のワー

であるとして、その権利が憲章に盛り込まれるべきであったと指摘し、この機会に興味や地域活動など人生を豊かにする時

間の意義を再考し、われわれ自身で憲章を築く重要性を説きました。

ライフビジョン学会の奥井禮喜顧問は、ワーク・ライフ・バランスとは「労働と生活の調和」のことだが、それが現状では不十分だから問題なのだと

の前提を確認し、長時間労働によってそれ以外の時間が圧縮されている点を指摘しました。また前述の憲章が少子化対策に偏向していると述べ、以上の背景には日本人の大半が前近代から明治期以降の勤労主義に至るまで、余暇の意義を十分に知らない事実があるとし、パンは生活のために必要だが人生の目的はパンではない「より以上の何か」であり、自分のしたいことができる幸福な時間として余暇こそは重要であると説きました。



法政大学大学院の藤村博之教授は、ヨーロッパ滞在中におけるバカンス(夏の一ヶ月休み)の実経験をともに「何もしない

こと、労働の休み」の意義を述べたうえで、日本の長時間労働の問題性について言及しました。現在の日本社会では、非正社員は低賃金に苦しみ、正社員は働きすぎに苦しむ構造があるとし、このうち長時間労働の要因について企業の人事・労務管理の視点から、業務量と要員の関係、業務の進め方、職場管理のあり方、顧客との関係という四点を指摘しました。例えば、非正社員の増加による労働効率の悪化、職場でのIT技術導入に伴う情報共有の不足、今なお根強い働きがい残業、無理をいつきあい残業、無理を

第54回理事会

第54回理事会が次の通り開催されました。
日時:平成20年5月31日(土) 12:00~14:00
場所:実践女子学園同窓会館3階会議室
出席者:会長 蘭田碩哉
理事 杉座、高橋、辰巳、山本、山田
欠席者(委任状提出)

:荒井、有馬、中村、中藤、福田、師岡

1. 報告事項
 - 1) ライフビジョン学会との共催イベントについて。
 - 2) 「大学別余暇学研究者調査」について。
 - 3) 「余暇力検定」について。
 - 4) ブロック研究会の実施状況。
 - 5) ニュースレターについて。
2. 審議事項
 - 1) 第12回研究大会について。
 - 2) 決算・予算について。
 - 3) 余暇学研究第11号編集の問題点について。
 - 4) 余暇学研究編集委員について。
 - 5) 今後の理事会開催について。
 - 6) 各理事の仕事分担について。

強いわがままな消費者の問題などを挙げ、改善の必要性を提起しました。フロアからも各企業の有給休暇の取組みをはじめ、NPOなど民間の

「労働条件格付け機構」の設置などユニークなアイデアも提起され、活発な議論が提起されました。(報告者 小澤考人)

「余暇学研究」合評会行われる
さる5月31日(土)午後2時から4時まで実践女子学園同窓会館において、「余暇学研究11号合評会」が開かれました。長時間にわたり、掲載論文、エッセイなどを、批評、議論しました。



去る5月18日(土)、北海道・東北ブロック研究会が尚絅学院大学を会場にしておこなわれた。日本余暇学会はすでに『余暇の世紀—ポストモダンのライフスタイル』(遊戯社二〇〇二)を上梓しており、今回の研究会はそれをうけて若者の職業と文化

をとりあげた。「ポスト」という用語を「フォーディズム」と結びつけば労働のフレキシブル化を意味し、「モダニズム」を付加えると生活のし方の変容を指し示す。その結果、とりわけ15〜25歳の非正規社員

の急増とIT機器の普及は、労働から余暇を独自の領域として分離し、彼らの余暇活動をハイパーリアリティやファンタジーという用語を用いて、ポストモダンといわれる社会状況のもとで余暇を論じることが可能にした。

北海道・東北ブロック研究会 開催報告

た特別区のソウル市と地方都市との教育の格差は歴然としており、この格差がますます開いている現状を説いた。さらに携帯電話やファーマーシャルレジャーについても言及した。ひろがえってフリーターとい

若者の国際比較をすればより深く日本の現状を理解できるのではないかと研究会を企画した。韓国若者の就業状況と文化の問題を研究テーマとしている同僚の姜永培氏を招いて、「韓国の若者と文化」という演題で韓国の若者を取り巻く教育と労働環境の講話と(一時間)、そのあと韓日の比較を論じ合うことにした(一時間)。姜氏は、韓国の社会階層を垂直に上昇移動していく手段としての進学熱の異常な高さが、投資に見合った報酬をもたらししていない(大学進学率80%以上)にたいして失業率は45%と指摘した。また

若者の国際比較をすればより深く日本の現状を理解できるのではないかと研究会を企画した。韓国若者の就業状況と文化の問題を研究テーマとしている同僚の姜永培氏を招いて、「韓国の若者と文化」という演題で韓国の若者を取り巻く教育と労働環境の講話と(一時間)、そのあと韓日の比較を論じ合うことにした(一時間)。姜氏は、韓国の社会階層を垂直に上昇移動していく手段としての進学熱の異常な高さが、投資に見合った報酬をもたらししていない(大学進学率80%以上)にたいして失業率は45%と指摘した。また

会費納入のお願い

平成20年度会費の納入をよろしくお願いいたします。

口座番号:00140-9-729065

加入者名:日本余暇学会

会費:一般会員10,000円学生会員5,000円

*新しい学会パンフレットができました。

余暇に関心のある方に、入会をお勧めください。

われる(た)年齢層が、10年、20年後どのような余暇活動を打ち立てているだろうか。若者と余暇活動への関心は尽きない。

担当 杉座秀親



左から渡邊千恵子会員

姜氏、杉座秀親会員

『余暇学研究』第12号投稿募集

『余暇学研究』第12号の投稿を募集します。投稿予定者は以下の要領に従い、投稿ください。

■投稿原稿の種類と字数

論文(総説、原著)10,000字以内、研究ノート(短報、話題、提言等)7,000字以内、エッセイ4,000字以内。いずれも図表、写真掲載の場合、相当字数を差し引くこと。

■エントリー方法

投稿希望者は平成20年9月20日までに学会事務局にエントリーする。

エントリーは、氏名、所属、住所、電話(FAX)、E-mail、タイトル、原稿の種類(論文、研究ノート、エッセイ)を記し、FAXまたは郵送にて行う。

■投稿資格

原則として日本余暇学会会員に限る。

■原稿締切

平成20年10月31日とする。発行は、平成21年3月末を予定。

エントリーされた投稿予定者には、投稿規定、執筆要領を送付しますので、規定類を遵守し、投稿してください。

■入稿方法

原稿は原則として電子テキスト(フロッピー、CD等)による。

■査読について

論文投稿は、編集委員会が選任する査読委員の査読を受けるものとする。論文としての要件を備えていない場合、研究ノートまたはエッセイとすることがある。その場合、原則としてそれぞれの区分に応じた字数に書き直すこと。

■採否

投稿原稿の採否は編集委員会で決定する。

(編集委員会)



『西洋余暇思想史』

瀬沼 克彰

世界思想社

定価 一九九五円(税込)

08年7月

本書は、主にヨーロッパの余暇思想の源流から、今日までの変遷を、多数の文献を引用しながら概観している。今日までの余暇思想を大観するのに適した一冊といえよう。西洋余暇学に興味をもっている初学者や体系的に余暇学思想の流れを整理してみたい人に奨める。第一部・第二部では古代から19・20世紀までの余暇思想を概観、第三部では現代余暇論の代表的著作を詳細に取り上げ、各時代の社会背景、人々の余暇活動の特徴や思想家の人となり併せ、余暇を巡る思想を紹介・論評している。このような網羅的な余暇思想書は長年にわたって余暇思想研究を積み上げてきた著者ならではの良書である。

I 古代から近世にみる余暇思想

II 19世紀から20世紀の余暇思想

III 現代余暇論の特徴

『レジャー市場におけるエリア・マーケティング研究』

下島康史

図書出版くんとる

定価 一九九〇円

08年3月

成熟し過当競争下にあるわが国のレジャー市場において、企業が存続するためにはマーケティング

ングの実践は不可欠である。さらに言えば、多様な市場ニーズを的確に捉えることが必須のマー

ケティングにおいて、地域を基盤としたより緻密なマーケティングの導入が肝要である。そこで

本書は、レジャー市場におけるエリア・マーケティング研究の端緒として、外部環境の実証解明を中心に、当該研究の可能性を検討している。外食、海水浴場、温泉、修学旅行、熱海、ラ

スベガスを事例に、最近10年間にわたるレジャー市場

関連の研究を集成した。

関連の研究を集成した。

関連の研究を集成した。

『ライブハウス文化論』

宮入恭平

青弓社

定価 一六八〇円(税込)

08年5月

夢追う若者から団塊世代までが集い、音楽でのしあがり、音楽を楽しみ、音楽を紹介して人と出会うための

戦後日本の「生演奏の空間」を担ってきたライブハウスの魅力に迫り、そのゆ

くえを語る音楽文化論。

余暇の最高のカタチは客船に乗って地球一周を楽しむことだろう。余暇学会会員にして「余暇人」の実践にもつ

とも長けておられる人物は、ピースボートで地球を巡ること3回目という山

岡平三氏を描いて他には見あたらない。今回の旅行記

もピースボートならではの寄港地、ベトナムはフエの

子どもの家、パレスチナの難民キャンプ、パナマの先

住民族などの訪問記が興味深い。ヨーロッパでもスベ

夏休み
読書大特集余暇に関する良書を
紹介します『地球遊学・103日
の船旅から』

安藤雅巳・山岡平三

余暇の最高のカタチは客船に乗って地球一周を楽しむことだろう。余暇学会会員にして「余暇人」の実践にもつとも長けておられる人

物は、ピースボートで地球を巡ること3回目という山

岡平三氏を描いて他には見あたらない。今回の旅行記

もピースボートならではの寄港地、ベトナムはフエの

子どもの家、パレスチナの難民キャンプ、パナマの先

住民族などの訪問記が興味深い。ヨーロッパでもスベ

インのゲルニカや国際司法都市としてのハーグを訪れている。山岡氏はどこでも人間味のある交流に力を入れ、旅の楽しさが人との出会いにあることを示してくる。(未来派ブックス)

(蘭田)

『人気を呼ぶ！
協創・協働の生涯学習』

瀬沼克彰

日本地域社会研究所

定価 一三二〇円(税込)

08年5月

わが国の生涯学習は従来の行政主導から、行政と住民の、協創・協働の形式が強くなっている。本書では行政と住民のコラボレーションによる進め方に注目し、全国各地の先進事例や

*編集部では会員の皆様方の投稿を受け付けます。

「みんなに知らせたいこの本、あの論文」というテーマで募集します。字数は

八百〜千二百字。余暇学会事務局までメールまたは郵

送でお送りください。なお、採否は編集部で決定、発表

は紙上掲載に代えます。

へんしゅうのあと

実態を取材し、調査分析した内容を収録している。行政と住民主体の活動的・創造的な地域協働体が新たな生きがいや働きがいを生み出す。

以下の方が入会されました。
山下雅彦(福山平成大学)

世界の「先進国」首脳が洞爺湖に集まり、豪華な「余暇」を過ごした。ワークライフバランス社会への取組み、労働時間の短縮、安定した働きやすい労働環境の実現を求めれば、「グローバルイノベーション」による国際競争力強化を楯に、それを回避する政治家や経営者たち。ボーダーレス化した労働問題を討議するのに格好の場であるはずの「元・先進国首脳会議」で、それらの問題が話し合われたのだろうか。「自然環境」も大事だが、「労働環境」の破壊も深刻だ。二酸化炭素はかりでなく、日本の労働時間にも削減数値目標を設定することはできないのだろうか。(山)